

総務財政委員会記録(No.19)

1 日 時 令和7年12月11日(木)
午前10時00分 開会
午前11時16分 閉会

2 場 所 第6委員会室

3 出席委員(10人)

委員 長	村 上 幸 一	副 委 員 長	大久保 無 我
委 員	吉 村 太 志	委 員	鷹 木 研一郎
委 員	廣 田 信 也	委 員	村 上 直 樹
委 員	宇都宮 亮	委 員	永 井 佑
委 員	伊 崎 大 義	委 員	小金丸かずよし

4 欠席委員(0人)

5 出席説明員

政策局長	小 杉 繁 樹	政策部長	右 田 圭 子
政策課長	高 岡 智 靖	サステナビリティ戦略課長	村 上 慈
総務市民局長	三 浦 隆 宏	安全・安心担当理事	南 野 栄 一
財政・変革局長	武 田 信 一	財 務 部 長	中 原 田 香 織
財 政 課 長	宮 崎 勝 晴	市政変革推進室長	星之内 正 毅
市政変革推進担当課長	秋 永 充 晴		外 関係職員

6 事務局職員

委員会担当係長	伊良皆 公 一	政策担当係長	田 中 康 雄
---------	---------	--------	---------

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	議案第144号 北九州市個人番号の利用に関する条例の一部改正について	可決すべきものと決定した。
2	議案第145号 北九州市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部改正について	
3	議案第146号 北九州市職員の給与に関する条例等の一部改正について	
4	議案第147号 北九州市職員退職手当支給条例の一部改正について	
5	議案第148号 北九州市旅費条例の一部改正について	
6	議案第149号 北九州市産業観光施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について	
7	議案第164号 公有水面埋立てによる土地確認について	
8	議案第165号 町の区域の変更について	
9	議案第166号 当せん金付証票の発売について	
10	議案第170号 指定管理者の指定の一部変更について（北九州市立男女共同参画センター）	
11	議案第185号 令和7年度北九州市一般会計補正予算（第4号）のうち所管分	
12	請願第3号外6件について	別添請願・陳情一覧表の請願3件及び陳情4件について、閉会中継続審査の申出を行うことを決定した。
13	大都市財政の実態に即応する財源の拡充について	調査結果について別添報告書（案）のとおり取りまとめることを決定した。
14	持続可能な都市経営のあり方について	財政・変革局から別添資料のとおり説明を受けた。

15	持続可能な都市経営のあり方について外1件	別添所管事務調査一覧表の事件について、閉会中継続調査の申出を行うことを決定した。
16	行政視察について	各委員から行政視察先の提案を受け、視察先の優先順位を決定することとした。
17	第2回北九州市・新ビジョン推進会議の開催結果について	政策局から別添資料のとおり報告を受けた。
18	「世界をリードするサステナブルシティ」に向けた取組について	政策局から別添資料及び動画視聴により報告を受けた。

8 会議の経過

○委員長（村上幸一君） それでは、開会いたします。

本日は、議案の採決、請願・陳情の審査及び所管事務の調査を行った後、政策局から2件報告を受けます。

初めに、議案第144号から149号まで、164号から166号まで、170号及び185号のうち所管分の以上11件を一括して議題とします。

これより採決を行います。

まず、議案第145号から149号まで、164号から166号まで、170号及び185号のうち所管分の以上10件について一括して採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、一括して採決します。

議案10件については、いずれも可決すべきものと決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認めます。よって、議案10件についてはいずれも可決すべきものと決定しました。

次に、議案第144号について採決します。

本件について、可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

賛成多数であります。よって、本件については可決すべきものと決定しました。

以上で議案の審査は終わります。なお、委員長報告については正副委員長に一任をお願いします。

次に、請願・陳情の審査を行います。

本委員会に新たに付託された請願2件を含むお手元配付の一覧表記載の請願3件、陳情4件については、いずれも閉会中継続審査の申出を行うことに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

以上で請願・陳情の審査を終わります。

次に、所管事務の調査を行います。

まず、大都市財政の実態に即応する財源の拡充についてを議題とします。

本日は、本事件について取りまとめを行います。正副委員長において作成した報告書案をお手元に配付しております。この報告書案について御意見はありませんか。

(「なし」の声あり。)

意見はないようですので、それでは、本件をもって本事件についての報告書にしたいと思いますますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。

ここで次の議題に関係する職員を除き退室願います。

(執行部入退室)

次に、持続可能な都市経営のあり方についてを議題とします。

本日は、第3回市政変革会議について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。市政変革推進担当課長。よかったら、着席のままです。

○市政変革推進担当課長 失礼させていただきます。持続可能な都市経営のあり方についての市政変革に関し、令和7年度第3回市政変革会議について説明いたします。

別紙1、第3回X会議次第を御覧ください。

11月28日に開催した第3回X会議では、各区のまちづくり戦略とプラチナ市役所プロジェクトについての討議を行いました。詳細について、資料に沿って説明いたします。

資料5の1、各区のまちづくり戦略を御覧ください。これから申し上げる資料のページ番号は、スライド右下のページ番号で申し上げます。資料の主な内容について説明いたします。

1ページを御覧ください。今回の区役所の討議では、昨年12月のX会議を踏まえた議論が行われました。昨年のX会議では、今後の区役所の在り方として、一律制から地域性、多様性、現場のことは現場で判断、区民、市民ニーズの3つの視点で議論が行われ、区を現場の最前線として、市全体の政策形成に生かせるように区役所をアップデートすべきとの方向性で一致していました。そこで、本年4月から各区に戦略担当職員を配置し、区の特성에応じた個別の取組を行ってきたところです。

2ページを御覧ください。この戦略担当の配置を踏まえ、今年度、各区においてどのような取組が行われてきたか、その目的や課題解決の概要、今後の展開について、各区から発表が行

われました。各区の取組については、資料5の2から5の8を添付しておりますので、後ほど御確認ください。

資料5の9を御覧ください。各区の取組を踏まえ、今後、本庁部門としてどのように区役所と連携していくのか、総務市民局より説明がありました。

2ページを御覧ください。各区での課題は、区域ごとに現れ方は異なりますが、地域資源の観光、交流化、地域コミュニティの縮小など、区では様々な課題に直面していることが改めて分かりました。

3ページを御覧ください。こうして得られた各区の課題、市民の声を、各区独自の取組と並行して市の全体施策にも生かしていく必要があります。

5ページを御覧ください。そこで、区の動きが市政を強くする新しい市政運営モデルとして、地域課題の把握精度の向上と戦略事業の加速、区の取組を横串で市政全体の課題として再定義、部局連携により政策実現速度を加速といった方向性で、区の視点を起点に市政が動く仕組みを強化することが総務市民局から説明されました。

続きまして、資料6の1、令和7年度プラチナ市役所プロジェクトの進捗状況を御覧ください。

2ページを御覧ください。プラチナ市役所プロジェクトは、若手職員や現場の第一線で働く職員を中心にプロジェクトチームを結成し、全市的な視点で課題を洗い出し、解決策を検討、実現していくものです。ページ下のスケジュール表の①を御覧ください。現在、プロジェクトチームの洗い出した課題や解決策の提案を踏まえ、制度所管課との協議を進めている段階です。今年度の成果は、年度末にレポートとして公表する予定としています。

3ページを御覧ください。今年度のプロジェクトにおいては、昨年度の職員の困り事に加えましてユーザーの困り事にもフォーカスし、サービスマネジメントの視点で、市民サービスの向上や労働生産性の向上となる業務改革を検討しています。

5ページを御覧ください。プロジェクトチームにおいて、現時点で34件の課題提案をしています。6ページ以降には、この34件について課題の内容と、その検討の進捗を一覧で掲載していますので、後ほど御覧ください。X会議では、これらのうち技術職員の更衣環境の改善についてなど、3件の個別提案について討議しました。会議では、各提案の実現可能性やプロジェクト全体のスピード感などについて意見があり、これらを踏まえて今後取り組んでいくこととしています。

最後に、第3回会議の発言要旨は別紙2、議事要旨に記載していますので、御確認ください。

以上で第3回市政変革会議について説明を終わります。

○委員長（村上幸一君） ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、着席のままで結構ですから、簡潔、明確に答弁願います。

質問、意見はありませんか。永井委員。

○委員（永井佑君） よろしくお願ひします。各区役所の取組とか、あと個別課題での取組いろいろあると思うんですが、その問合せ先はどうなるんですかね。各所管になるんですか。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 問合せ先なんですけども、基本は各区役所の所管課になります。一方で、広聴機能として、区役所の総務企画課に広聴機能を置いています。ホームページの市民の声などにも、市民の要望であったりとか相談事を投稿できるシステムになっています。以上です。

○委員長（村上幸一君） 永井委員。

○委員（永井佑君） 資料が膨大で、昨日全体像を頂いたので、もう少し小分けに報告していただきたいなというのはあるんですが、これでも十分工夫していただいていると思うんですけど、そのあたりの工夫というのはできないんでしょうか。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 資料が膨大になっている点については、確かにそのとおりだと思っています。できるだけ簡潔にしていきたいと思っております。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進室長。

○市政変革推進室長 こちらにつきましては、確かに膨大というところで、X会議、様々な行政テーマを扱いますので、今回は区役所で集中したところがあるんですが、ウェブへの掲載等で反復しながら見ていただける形でやっているところがございます、一つ一つの資料についてはポイントを絞ってこれからもやっていくことは心がけてまいりたいと思います。ウェブでの掲載のところをよく御覧いただければと。問合せ先も、一般的には問合せ先は広報、広聴等いろいろございますけど、この資料に書かれている区取組ということでありまして、これは区の戦略担当が主導的役割を果たしてやった取組ですので、区の総務企画課が戦略担当が置かれている部署ですので、そちらへのお問合せになるかと考えております。以上でございます。

○委員長（村上幸一君） 永井委員。

○委員（永井佑君） ぜひ、よろしくお願ひします。問題意識としては、各区役所の取組、それはそれで、地域の実情とか地域住民、区役所の利用者の方々のニーズを捉えて取り組んでいただくというのは必要なことなんですけど、財源がないことには前に進んでいかないので、財政・変革局としては、来年度の予算編成に絡めてというか、来年度の予算編成の考え方、各区役所の予算配分については今どういう状況かを教えてください。

○委員長（村上幸一君） 市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 市政変革推進室からまずお答えしますけども、令和7年4月に戦略担当の職員をつけ、そこから令和8年4月に向けての取組、これ予算編成方針の中でも公表されているんですけども、令和8年度予算において、各区役所、各区において、地域課題の解決

に向けて各区が独自に課題解決できるように、各区の予算要求枠を設けることとしています。規模としては、要求ベースで各区1,000万円を上限としておりまして、個別に査定は行わないんですけども、そういった仕組みを今、戦略事業予算枠として設けることとしております。以上でございます。

○委員長（村上幸一君）永井委員。

○委員（永井佑君）各区の予算要求枠は上限1,000万円ということですが、これを新設するという考えでよろしいですか。

○委員長（村上幸一君）市政変革推進担当課長。

○市政変革推進担当課長 令和8年度予算で新たに新設されるということでございます。以上です。

○委員長（村上幸一君）永井委員。

○委員（永井佑君）こういう各区の戦略、取り組んでいくことに関して、今までは各区のそれぞれの予算の中でやってきたものだと思いますけど、今回のような令和8年度の予算、1,000万円上限という枠組は過去につくったことはないんですかね。

○委員長（村上幸一君）財政課長。

○財政課長 今回のように特別枠として予算要求枠を設けたのは初めてでございます。以上でございます。

○委員長（村上幸一君）永井委員。

○委員（永井佑君）1,000万円を上限でいろいろ考えられると思うんですが、これに使っていいよ、これに使ったら駄目だよという取決め、要綱というか、それは内規で決められるのか、その辺のところを教えてください。

○委員長（村上幸一君）財政課長。

○財政課長 今回、要求枠は重点戦略推進予算枠になっておりますので、あくまで新ビジョンに基づいたもので限定されます。以上でございます。

○委員長（村上幸一君）永井委員。

○委員（永井佑君）分かりました。新ビジョンということだったので、勉強会等でもその辺は詳しく教えていただけるとと思いますから、またそのときに伺いたいと思います。以上です。

○委員長（村上幸一君）よろしいですか。ほかにありませんか。

ほかになければ、次に、お手元配付の一覧表記載の事件については次の定例会までの間、調査を行うこととし、閉会中継続調査の申出を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

次に、行政視察についてお諮りします。行政視察については、所管事務の調査に資するため、先進的な取組を行っている都市や、その取組が今後の本市の行政に役立つと思われる都市など

を中心に実施したいと考えております。このため、委員の皆様には調査事項に適した視察先の案を御提示いただき、正副委員長案としてお示ししたいと思っております。その案の中から皆様の御意見を伺い、受入れ交渉等を行うため、視察先の優先順位を決定したいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり。)

御異議なしと認め、そのように決定しました。なお、視察先の案につきましては12月25日までに事務局に提出をお願いいたします。

以上で所管事務の調査を終わります。

ここで本日の報告に関係する職員を除き、退室願います。

(執行部入退室)

次に、政策局から、第2回北九州市・新ビジョン推進会議の開催結果について及び世界をリードするサステイナブルシティに向けた取組についての以上2件について一括して報告を受けます。政策課長。

○政策課長 それでは、第2回北九州市・新ビジョン推進会議の開催結果についての御説明を申し上げます。

タブレットのファイル名、表紙、第2回新ビジョン推進会議開催結果を御覧ください。

新ビジョンの推進に当たりましては、有識者による北九州市・新ビジョン推進会議を設置しております。進捗状況や今後の方向性などにつきまして御意見をいただくということにしております。10月24日、昨年に続きまして第2回となる推進会議を開催いたしました。構成員及び当日出席者につきましては、資料のとおりとなります。タブレットに格納しております資料1から資料4までが、当日配付の資料でございます。資料5が、会議で構成員から出た御意見のまとめとなっております。

それでは、会議内容についての説明を申し上げます。

資料1、令和6年度の取組につきましては、後ほど御参照ください。

タブレットのファイル名、資料2、北九州市・新ビジョンの進捗状況を御覧ください。

1ページ、下段の図でございます。昨年度、整理いたしました新ビジョンの進行管理イメージとなります。新ビジョンで掲げております都市の総合力を示す19の成果指標に加えまして、3つの重点戦略に基づきます取組の効果を把握するため、分野別計画などから30のKPIを抽出しております。合わせて49の指標を見ていくことで新ビジョンの進捗を把握することとしております。

○委員長(村上幸一君) すみません、私、言うのを忘れておりました。よかったら、着席して。

以後、答弁する方も着席のままです。私、すぐ言い忘れるもの

ですから、申し訳ありません。

○政策課長 ありがとうございます。この49の指標の現状値等につきましては、資料4にグラ

フでまとめておりますので、後ほど御参照ください。

次に、資料2の2ページでございます。特に動きのあった指標をピックアップし、新ビジョンの進捗状況としまして整理をいたしました。

まず、稼げる町についてでございます。空港の貨物取扱量、企業誘致件数が過去最高を記録するなど指標の状況から、新ビジョンの最優先課題として位置づけております、稼げる町の実現につきましては、着実に前に進んでいるものと考えております。

次に、下段の町のにぎわいについてでございます。小倉、黒崎両地区におけます商業地価は4年連続で上昇しております。また、両地区の主要地点の歩行者通行量が目標値を達成したことなど、また、観光面でも宿泊客数がコロナ禍前の水準に回復してきていることから、小倉地区を中心に新たなにぎわいが創出されてきていると考えております。

次に、資料3ページの下段のグラフを御覧ください。こうした中で、今年の最も大きな成果となりますが、令和6年には人口の社会動態が転入超過を達成いたしております。

次、4ページを御覧ください。この社会動態の内訳でございますけれども、日本人が大きく改善しております。また、20歳代、30歳代といった若者、子育て世代の転出が改善しております、企業誘致やにぎわいづくり、子育て支援などの取組の成果が出てきていると考えております。

次に、タブレットのファイル名、資料3、令和7年度の北九州市の主な取組を御覧ください。

1ページの下段になります。新ビジョンの取組が着実に進んでおります一方、課題感もあります。観光消費額や空港利用客数がコロナ禍前の水準に達していないことや、日本人の社会動態は改善していますが、若い女性の流出が多く、喫緊の課題となっております。

次の2ページの上段を御覧ください。令和7年度は、こうした課題感を踏まえながら、女性、観光、サステナブルを重点テーマに掲げた取組を進めております。

続きまして、タブレットのファイル名、資料5、構成員意見を御覧ください。

1ページ目に、構成員の方々からいただいた御意見を要約してまとめております。産業につきましては、北九州市の強みの発信、企業のDXにおける経営者意識の重要性などについて御意見をいただきました。若者、女性につきましては、学校卒業直後の方々に向けた取組、北九州市で働く価値などの言語化、若者が楽しめる町や女性が働く場所の創出の重要性などについて御意見をいただきました。観光、にぎわいにつきましては、1人当たり観光消費額の向上の重要性、北九州市の魅力を生かしたラグジュアリー滞在への御提案をいただいております。シニアにつきましては、移動手段の確保の重要性について御意見をいただきました。外国人についてでございますが、外国人に対する情報の発信方法と受け手側の入手方法とのギャップ、高度外国人材に関する戦略の必要性などについて御意見をいただきました。その他の御意見としまして、U・Iターン戦略における指標の必要性、サステナビリティに関するポテンシャル、政策の選択と集中についての御意見などをいただいております。

このほか、たくさんの御意見をいただきました。2ページ以降に記載しておりますので、後ほど御参照ください。いずれも貴重な有識者の御意見でございまして、関係局と共有し、今後の取組に活かしてまいりたいと考えております。

以上で第2回北九州市・新ビジョン推進会議の開催結果についての説明を終わります。

○委員長（村上幸一君） サステナビリティ戦略課長。

○サステナビリティ戦略課長 世界をリードするサステナブルシティに向けた取組について報告させていただきます。

資料、世界をリードするサステナブルシティに向けた取組についてを御覧ください。

本市は、今年度を、世界をリードするサステナブルシティに向けたキックオフの年と位置づけ、環境、経済、社会の課題解決を通じて持続可能な町であり続けるための戦略的なアプローチを推進しておりまして、その取組状況について報告いたします。

初めに、今年度のこれまでの取組について説明いたします。

まず、6月に日本の自治体で唯一招待を受けまして、ドイツのボンで行われた2つの気候変動に関する国際会議に出席し、北九州市として世界におけるプレゼンスを発揮しました。9月には、世界をリードするサステナブルシティ実現に向けた市民、企業、行政の共創の場づくりを見据えた準備として、市役所として部局横断プロジェクトチームを創設し、毎月、定例ミーティングを継続的に実施しております。10月には、世界に向けた北九州市のサステナビリティを紹介する動画を作成いたしました。本日、この後、実際にこの動画を御覧いただきたいと思います。11月には、北九州市を訪れたSDGsに関する複数の海外専門家に対してヒアリングを実施いたしました。

次に、世界的専門家との連携について報告いたします。

別紙を御覧ください。別紙の下の部分になります。資料にございますオーストラリア国立大学のシューメイ・バイ教授という方は、都市とサステナビリティに関する世界的な専門家でいらっしゃるのと同時に、北九州市のことを世界的なサステナブルシティであると評価していただいております。また、利他的な都市や世界変革の主体といった先進的な概念を提唱されている方でございます。こうした世界的な専門家との連携関係の構築を進めているところでございます。

最後に、元の資料に戻っていただきまして、今後の展開について説明いたします。

今後は、市民との密なコミュニケーションを推進いたしまして、市民との共創関係の構築を図るとともに、世界に向けたサステナブルシティに関する理念や産官学民連携によるイノベーションの創出、投資家や専門家、イノベーター等呼び込む仕組みの強化、市民の日常に根差した活動の推進などを中心とした取組を順次発信していく予定でございます。

説明は以上となりますが、続きまして、先ほど申しました、今年10月に制作した動画を上映させていただきますと思います。この動画は、説明させていただきますと、サステナビリティ

ィーを切り口に北九州市の魅力を世界に向けて発信する動画として、利他と再生をテーマに、環境政策のみならず自然や福祉、食、スポーツなど幅広いテーマについて、日本的な書道の要素を取り入れながら紹介する動画となります。作成に当たっては、書道に関しては市内の高校生、英語のナレーションに関しては市内の小・中学生に御協力をいただきました。本来、全編14分程度の動画になりますが、本日は抜粋しまして6分程度の動画とさせていただければと思っております。それでは、よろしくお願いいたします。

(動画視聴)

以上となります。ありがとうございました。

○委員長（村上幸一君） 終わりですかね。じゃあ、ただいまの説明に対して質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、着席のままで結構ですから、簡潔、明確に答弁をお願いします。

質問、意見はありませんか。伊崎委員。

○委員（伊崎大義君） 新ビジョンの推進会議についてとサステナブルシティーに向けた取組について1つずつ質問させてください。

1つ目、新ビジョン推進会議について、有識者からの意見で、若年女性をピンポイントにターゲットとした施策をとということが御意見としてもあったんですけども、ここに向けて来年度予算で具体的なアイデアは現時点で既に練られていて、発表される予定はあるのでしょうか。

○委員長（村上幸一君） 政策課長。

○政策課長 今回の会議の有識者の御意見につきましては、所管局に情報共有いたしまして今後の取組に生かしていくということでございますので、来年度予算にすぐ反映できている段階にはございません。以上でございます。

○委員長（村上幸一君） 伊崎委員。

○委員（伊崎大義君） 私、議会でも発言させていただいたんですけども、今、女性の流出が最大の問題になっていると思うので、新ビジョンについても出生率の目標設定ありますけども、資料を見ても出生率、今回1.37に下がっていて、目標に比べてまた差ができていると思うんですけど、この出生率は母数が変動すれば、流出が減ればそれだけ出生率は下がりやすくなってしまうものなので、この結果に一喜一憂せず、引き続き女性をターゲットとした政策をやっていただきたいですし、出生率を指標から除外することは引き続き御検討いただければと思います。

あと、サステナブルシティーについてですね。この動画拝見させていただいて、制作費用はどれぐらいかかったものなんでしょうか。

○委員長（村上幸一君） サステナビリティ戦略課長。

○サステナビリティ戦略課長 こちらの動画制作費用につきましては180万円程度となっております。以上です。

○委員長（村上幸一君）伊崎委員。

○委員（伊崎大義君）しっかりと力をかけて作っていらっしゃるなという印象を受けました。ただ、残念ながら、ユーチューブを見ると再生数はまだ1,800回ぐらいで、1か月たってこの数字は、税金を原資として180万円かけたものにしては物足りない結果ではあると思います。再生数が多ければいいというものではないとは思いつつ、どうしてこういう結果になってしまったのかという分析については引き続きしていただいて、今後、こうやって動画でPRするというのは取られやすい手段ではあると思うんですけども、その有効性というところは常に検証し続けていただければと思います。私からは以上です。

○委員長（村上幸一君）ほかにありませんか。廣田委員。

○委員（廣田信也君）よろしく申し上げます。私からは、意見として2点ほどお伝えさせていただきます。

1つ目が、新ビジョン推進会議の観光、にぎわいのところで、観光消費額が不十分ということなので、一番必要なのは、北九州市はやっぱり、宿泊はするけど観光せずに次の目的地に行っているんじゃないかといった部分が気になりまして、北九州市に来たら絶対ここには行かなきゃいけないという施設、もちろん小倉城とか皿倉山とか、そういった資源はありますので、必ずここに行くんだみたいな強みが一つ、またこれから増えていけばいいなという、そういった取組をしていただけたらと思っております。

続きまして、先ほどの動画の件なんですけども、先ほど伊崎委員もおっしゃっていたかと思うんですが、1,800回再生ということで、拝見したらすごくいい動画でしたので、いろいろなところで見やすい形をどれだけつくっていきけるのかがこれから勝負じゃないかと。普通にユーチューブに載せて、検索しないと届かないじゃなくて、リンクを貼るなりとか、よく見られるサイトとかほかのPRするところに、北九州市はこんな町ですよというリンクを貼ることによって、そういったのが見えるんじゃないか、そういった取組も進めていただけたらと思っております。以上、意見でございました。終わります。

○委員長（村上幸一君）ほかにありませんか。鷹木委員。

○委員（鷹木研一郎君）新ビジョンについて1件お伺いさせていただきたいと思えます。

第2回の北九州市・新ビジョン推進会議、構成員の意見のところなんですけれども、存じ上げている方もたくさんいらっしゃいました。本当に的を射た、的確というか、鋭い意見がたくさんあるなと思って見させていただいております。こうした意見についての答えはどうしているのかを教えていただきたいと思います。

○委員長（村上幸一君）政策課長。

○政策課長 関係局と共有して今後の取組に生かすというのは先ほど説明させていただきましたけれども、その結果、今どういう形で市政に反映していますというところを次回の推進会議までに委員の皆様にはフィードバックして、具体的でなくて総論的なこともございますので、

全部が返せるわけではないんですけども、具体的なものとか施策に反映できるものは委員にお返ししているというところがございます。

○委員長（村上幸一君） 鷹木委員。

○委員（鷹木研一郎君） 分かりました。僕も全て読み込めたわけではないんですけども、顔を思い浮かべながら、この方がこういったことを言われておるなどか、本当に北九州市にとって貴重なアイデアになる意見がたくさんあるなと思いました。もちろん、全ての意見一つ一つについて答えを返すというのは難しいと思いますし、せつかくこういった貴重な意見に対して、委員の皆さんにできる限りのフィードバックをしてあげて、また、この会議が活性化したらと思いますので、よろしく申し上げます。以上です。

○委員長（村上幸一君） 意見でいいですね。吉村委員。

○委員（吉村太志君） ありがとうございます。まず、新ビジョンの進捗状況とかこの辺なんですけど、ぜひ達成をして、これからも、先ほども委員から意見も出たように、ここで終わるのではなく、さらに皆さん行政が一丸になって、まだまだこの北九州市はいろんな課題があります。地域住民の皆さん、そして高齢化、いろんな課題があります。そのためには、新ビジョンで掲げている稼げる町、これをしっかりやっていっていただきたいので、ぜひ一丸になって頑張っていたいただければと思います。私たちも全力で応援をしていきたいと思っています。

先ほどの動画、本当に、僕は感動しました。ありがとうございます。先ほども廣田委員からも出ましたが、どうやってこれをうまく皆さんに届けていくのか。できたら小・中学生とかにも見てもらいたいなとも強く感じました。そういうものとか、ぼんと目につくような、例えば駅前とかでも出せるものであれば、それもお金もかかっていますが、でも、市民の皆さんの啓発につながるようであれば大切なことかなと思っております。こういったものが、自治会でもいいです、いろんなところで動画を流したりできる工夫というのがあるんじゃないかなと思いますので、ぜひ頑張っていたいただきたいなと思います。これは意見として。

あと、サステナビリティなんですけど、私はSDGsをすごく推進して、我が町はSDGsでこれから未来に向けていくんだと思って、サステナビリティとSDGsの関係というのは、サステナビリティを実現するためにはSDGsが一つの目標だと思っているんですよ。今、何かこっち側のほうが、サステナビリティという言葉のほうがどんどん出てきている。やはり、私たちは原点のSDGs、これをまだしっかりと徹底的にやっていくことも大事ではないかなと思うんですけど、どうしても我々って新しいものにぼんと飛びついてしまう気配があるんですけど、でも、やはり原点は、私たちはSDGsの町として世界でも選ばれた都市なんで、それをしっかりとしながらこの大きな目標に向かってやっていきますよということを言わないと、あら、今度は違うことやっているのかと思われるのも、私たちはそこはどうかなと思うんですけど、その辺はどうでしょうか。

○委員長（村上幸一君） サステナビリティ戦略課長。

○サステナビリティ戦略課長 ありがとうございます。委員がおっしゃるとおり、SDGs、非常に重要な概念でございまして、SDGsのSがサステナビリティを表すとおり、世界をリードするサステナブルシティを目指すイコール世界をリードするSDGsの都市であるということは間違いないと思っております。SDGsに関しては、認知度が高いという強みがあると思っております。市民の皆様も9割以上、SDGsという言葉を知っていただいております。それは、これまでの市政の努力と皆様のお力終えの結果だと思っております。これをますます推進するためには、SDGsクラブであるとか登録制度であるとか認証制度であるとか、これまでの様々な施策がございまして、それも引き続き強化していきたいと思っております。

サステナビリティという言葉を使っているのは、より一般的な用語、世界で一般単語としてより広く使われているサステナビリティという言葉を使うことによって、より広く世界に発信していくという思いと、SDGsに関しては、最近、国連だとかSDGsという言葉に対してちょっと疲れを感じているみたいなお声も、市民の皆さんに伺うこともございまして、より自分事に捉えていただいて、持続可能な社会をつくるにはどうすればいいのかという本質に立ち返って考えていただくきっかけづくりにもしたいと思っております。いずれにせよ、SDGsも非常に重要だと思っておりますので、一緒に取り組んでいきたいと思っております。

○委員長（村上幸一君） 吉村委員。

○委員（吉村太志君） ありがとうございます。ぜひ、私たちが最初にやってきたのはSDGs、その先にサステナビリティな町になっていくということを理解したら、なるほどなと思うんで、そこをもっと発信していただきたいなと。そして、日頃から私たちも持続可能な、この北九州市を未来に向けて残していけるように活動していきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

○委員長（村上幸一君） 意見でいいですね。小金丸委員。

○委員（小金丸かずよし君） 小金丸です。お疲れさまです。よろしく願いします。今、サステナビリティの話がありまして、制作された動画も拝見させていただいたんですけども、動画一つ一つに対して物申すつもりもないんですけども、非常に寂しいのが、北九州市の市花であるヒマワリが1シーンでも映っていなかったというところで、超えるというセッションがあるんですけども、公害を克服した後の、公害のイメージしか頭に残らずに、その後の青空が欲しいの映像だと思うんですけども、動画に青空がほとんど映っていないんですよ。ですから、こういった歴史が積み上がってきて、今、北九州市がどういう状態にあるか。その後すぐテクノロジーの話に移ってきていますので、人々が紡いできた歴史というのは、まずは青空を取り戻した。そこがやっぱり一つ、動画全体としても明るくなるイメージになるチャンスなんですけども、そこがちょっと足りないんじゃないかなと。

今、小・中学生のひまわりコンテストとか、北九州市の市花であるヒマワリを広めようと、私も20年近く青年会議所で取り組んできました。それが、北九州市とも連携しながら、一時期、市の職員さんの名刺にもヒマワリがありましたけど、いつも私が言うことなんですけど、今はカッコいい小倉織のデザインになっていますけども、やはり私たちのシンボルであるヒマワリと、もう一つ言えばツツジですね、そういったものも世界に発信していくツールの一つかなと。これで動画を編集し直してくれとか、そういったことじゃないんですけども、動画全体見て、終わって、何か明るい気持ちにならないんですよね。そういった何か、180万円というか、お金のことじゃないんですけども、本気で作り込むのであれば本気で皆さんで見て、吉村委員がおっしゃったように子供たちにも見せて、いいものを発信していただきたいなと思い、少し残念な意見として残させていただきました。以上です。

○委員長（村上幸一君） 意見でいいですかね。ほかにありませんか。宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君） 2点お伺いさせてください。まず、成果指標についてなんですけれども、平成期の北九州市の魅力度が155位になっていると思うんですけど、にもかかわらず観光消費額が高い要因、その要因と比較して現在の観光消費額に至っている分析結果というものがあれば教えてほしいです。

○委員長（村上幸一君） 政策課長。

○政策課長 観光消費額については、コロナ前まで戻っていないという現状がございますので、これは先ほど廣田委員から御指摘もありましたとおり、観光で滞在を延ばすとか、そういった取組ということで、ナイトタイムエコノミー、夜とか早朝の観光とか、そういった取組を都市ブランド創造局で取り組まれているのが現状でございます。

それと、魅力度ですけれども、これ全国調査でございまして、何がきっかけで順位が低下したのかという明確なものはなかなか難しいんですけども、たまたま調査のタイミングで痛ましいファストフード店での中学生の殺傷事件がございまして、全国に北九州市の名前と共に発信された時期ということもございましたので、その事件の影響も多少あって、順位に影響があったのではないかなと分析もしているところでございます。以上でございます。

○委員長（村上幸一君） 宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君） 魅力度が上下する要因って、項目として明確に出ていない感じなんですかね。

○委員長（村上幸一君） 政策課長。

○政策課長 項目は出ておりますけれども、今回指標にしている調査につきましては、北九州市が安全・安心な町ですかとか、よく知っていますかとか、行ってみたいですかとか、そういった項目が多い調査になっておりまして、そういうところに今回は影響が出て下がってしまったというところでございます。いろんなところが調査はされていますけれども、指標にしている調査はそういうところでございます。以上でございます。

○委員長（村上幸一君） 宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君） じゃ、もともとの内容ですけど、観光消費額の分析としてはありますか。

○委員長（村上幸一君） 政策課長。

○政策課長 消費額が戻っていないというのが、都市ブランド創造局の分析では、コロナ前は中国人とかが大量に買物をして帰ったりとか、そういった風潮があったのが今止まっているとか、そういったものもありますけれども、今後これを増やしていくためには滞在期間を延ばしてもらい、宿泊をしていただいて夜とか早朝にも楽しんでいただくことで消費額を伸ばしていきたいという取組をしていると聞いておりますので、そこは力を入れていきたいというところでございます。買物消費につきましてはなかなかですね、そういう風潮というのがすぐ変わるものではないので、先ほど廣田委員から御指摘もありましたとおり、北九州市に行ったらこんな楽しみがあるよというものをつくり出していくことが大切かなというところでございます。

○委員長（村上幸一君） 宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君） ありがとうございます。過去の例に倣えよというわけじゃないですけども、今の取組をぜひ頑張っていってほしいなと思います。

すみません。さっきの動画について質問なんですけれども、これはユーチューブ以外には特に載せていないのでしょうか。

○委員長（村上幸一君） サステナビリティ戦略課長。

○サステナビリティ戦略課長 ありがとうございます。ユーチューブ以外には載せていないといえば載せていないんですけども、例えばこの秋に、毎年行われている非常に大きな気候変動のCOP会議のジャパンパビリオンのバーチャルパビリオンというところがございまして、そこにもユーチューブのリンクを掲載させていただいたりとか、そういう形で、ユーチューブを基幹的に持ちながら、そのリンクを各所に貼っていくような取組を今後も進めてまいりたいと思っております。

○委員長（村上幸一君） 宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君） ありがとうございます。パビリオンにもというところで大阪万博の動画をすごく思い出したというか、ストーリー性のある動画なので、跳ねやすいというか、見てもらいやすいというか、共感を生みやすいというのがあるんで、さっき吉村委員が言っていたとおり駅前の大ビジョンに載せるだけでも、見られると思うんですね。

博多駅前の湾曲した大画面があると思うんですけど、そこでも昔はJRの、たしか鉄道の開業何周年かの記念CMが流れたときはいろんな方が見ていましたし、僕もそれを見て涙が出るぐらい感動したんで、ユーチューブも広告とかいろいろあるとは思いますが、そういうストーリー性があるものって駅前の大画面とかにはとても相性がいいと思っています。これは意見なんですけれども。

この動画の制作費用について1つ質問があって、180万円という大枠があって、その詳細の内

訳がどういうものかを教えてほしいです。

○委員長（村上幸一君） サステナビリティ戦略課長。

○サステナビリティ戦略課長 ありがとうございます。180万円の詳細な内訳に関しては、具体的な金額は、すみません、お答えできないんですけども、主に現地の撮影費用になります。14分という、動画の種類でいったら長尺の動画になります。これで、このクオリティーで180万円というのは、様々な御意見はあるかもしれませんが、かなり破格だと思っています。それは何かというと、この企画部分、例えば漢字で取りまとめるとか、こういうテーマでまとめるとか、スクリプトを考えてみるとか、そこは市職員自ら、結構手作業というか、みんなチームで頑張って作ったものになります。そういう企画部分とかは我々で組みながら、プロに任せなきゃいけない機材も含めた撮影であるとか、そういった部分を180万円の部分でお願いしているというような状況でございます。

○委員長（村上幸一君） 宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君） ありがとうございます。その会社に依頼した選定基準はありますか。

○委員長（村上幸一君） サステナビリティ戦略課長。

○サステナビリティ戦略課長 選定基準につきましては、180万円という市の契約制度にのっとり、見積りを頂戴して、金額と業務内容で合意いただいた企業さんをお願いしているところでございます。

○委員長（村上幸一君） 宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君） ありがとうございます。多分、その見積りとか、提案の中身として、この動画を出した際の最終的な成果目標というか、これを目指してこの動画を作りますよというものもきっとあったはずだと思うんですよ。その数値とかってあります。

○委員長（村上幸一君） サステナビリティ戦略課長。

○サステナビリティ戦略課長 成果に関しましては、数値というものはないんですけども、世界をリードする、そのために世界に発信する、そういった内容にするという定性的な条件を示しているところでございます。

○委員長（村上幸一君） 宇都宮委員。

○委員（宇都宮亮君） 分かりました。ありがとうございます。正直、180万円であの内容というのは結構破格だと僕も感じているところなので、選定基準をしっかりと持って、多角的に見てもらって、制作とかいろんなところに効果的にお金をかけてもらえたらなと思います。以上です。

○委員長（村上幸一君） ほかに質問、意見はありませんか。永井委員。

○委員（永井佑君） お願いします。新ビジョンの推進会議についてです。委員の皆さんから構成員の皆さんの発言について、情報提供について議論がありましたが、私自身も、すぐに情報提供しなければならない発言もあったと思います。ほかにも、今北九州市で削られた予算の内

容とか議会内での動きなどもすぐにフィードバックする必要があると思いましたから、その辺はほかの委員の皆さんも言われたようなフィードバックをぜひよろしくをお願いします。

それから、構成員の皆さんからの意見は関係局に共有して協議をしてもらうということでしたが、結局は関係局がどうするかと投げた状態になると思います。私は、それでは駄目だと思います。新ビジョンを取りまとめる政策局として一定の監視の目というか、こういう意見が出されましたよと、各関係局で協議してくださいと言うだけでは、結局、新ビジョン達成に向けて投げただけになっていますから、私たちが議会としてチェックはしますが、縦割りではなく、そこはその後どうなっているのかというところは見ていただく必要は私はあると思いますが、この辺はどうでしょうか。

○委員長（村上幸一君） 政策課長。

○政策課長 委員がおっしゃられたとおり、情報共有して、こういう御意見がありましたと伝えるだけでは、今後の市政にどう反映したかというフィードバックを構成員の皆様にはできませんので、そこは状況確認を一緒にしながら、ビジョンを進めるためにこの施策をどうやっていくのかというのは一緒に考えていくことで進めていって、その結果、構成員の皆様にはいただいた御意見について、この施策がこういうふうに進んでおりますという結果をフィードバックするというので取り組んでまいっております。今後もそういうふうにしていきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（村上幸一君） 永井委員。

○委員（永井佑君） 私は、これまでの取組を見てきた中で、あと本会議での議論、委員会での議論をしていく中で、特徴的と言ったらほかにもあると思いますが、物価高騰がずっと続いている中で、一度、市民生活に関わる草刈り予算が削られて、戻しましたが、そこから上げたりはしていますが、結局、物価高騰に追いつかずに草刈りの面積が減っているという実態も今あるわけです。あそこもできていない、ここもできていないと。ただ、一方で予算は上げているという説明をしても、それを市民の皆さんが納得するかというと、そうはならないですね。ほかにも、市営住宅の退去後修繕ですね、今住んでいる方が出られた後、その部屋を改修しますと。数年前まで1戸当たり100万円程度と言われていましたけど、今もう167万円まで上がっています。ただ、全体の予算はここ数年変わっていないので、募集の部屋が増えていない現状もあって、今日の新ビジョンの取組の中にも、にぎわいづくりという非常に大事なところも触れられてはいますが、本来行政が住民福祉の向上に取り組まれるところが私は鈍化しているんじゃないかというところが現状かなと思います。そういうところは、政策局で触れる部分は関係局に比べると難しいと思います。ただ、先ほど一緒に進めていくということがあったので、新ビジョンの構成員の皆さんから寄せられている声は、中に大事なものがありました。高齢者の就労についてとか、移動手段の関係とか、若者・女性に対する取組とか意見というのは大事なものがあったので、そういう視点で取り組んでいただきたいと思います。見

解を伺います。

○委員長（村上幸一君） 政策課長。

○政策課長 今、委員がおっしゃいました具体的な施策、事業につきましては、新ビジョンは全体の方向性、戦略、市としてこういう方向でいきますよということで3つの重点戦略を掲げております。委員がおっしゃられた大事な点というのは、安らぐ町という戦略の中で取り組んでいきたいと思いますという方向性を示しております。具体の施策につきましては、その下に各局が策定します分野別計画が数十個ございまして、その中で、方向性を見ながらその施策に反映させていく立てつけになっております。分野別計画の策定に当たりましては、政策局にも情報提供をもらうようにしております、ビジョンの方向性とそごがないかどうかとか、その辺の意見を申し上げながらやっていく形で全体を進めております。そういう状況ですので、ビジョンの中に全て書き込むとなるとすごい事務事業数になりますので、全体の方向性、戦略を示す、最高位にあるものがビジョンで、その下に各分野別の事業、施策があるというふうに進めているところでございます。

○委員長（村上幸一君） 永井委員。

○委員（永井佑君） 今、市長の任期も折り返しの中で、市民の皆さんから結構寄せられるのが、今日の御説明の資料にもありましたが、構想ですよ。グローバル挑戦都市・北九州市を目指すという文章もありますけど、一歩先の価値観って何だろうという御意見も今いただくわけで、その達成に向けて稼げる町、安らぐ町、彩りある町の実現ということなんですが、そこに、主体は誰なんですかと。そこは、私は主体が市民であることが何よりも大事だと思っています。今日、政策局の皆さんがまとめていただいている市の取組を見ていくと、市民の声を受けて前進しているものの中にはあると思います。が、速度が速いものと金額の大きいものに反して、遅いもの、あと低いものの濃淡を非常に感じました。いいところを取っているだけに感じる面もありました。

また、目標は出していますが実行されていないものとか、従来の枠の中で取り組まれていると感じるものもありました。例えば、企業誘致とかであれば、市民に恩恵があるものについてはいいと思います。反対するものではないと思いますが、一方で、学校体育館の空調設置については今、具体的な計画もないわけで、まだ3校の計画しかない。今日の資料にもありましたけど、200校あるのにいつ終わるんですかという話もあります。観光大都市への進化をうたっていますが、昼間の地域住民が暮らす町におけるごみの散乱、今日の動画にもありましたけど、イベントの際はああいう形でごみの収集だったり、ボランティアの皆さんが活動されていますが、地域で暮らす住民の町は今どうなっていますかという視点も大事だと思います。ごみステーションの設置などは、私はまだまだ地域に投げている、丸投げしている状況じゃないかなと思いますから、観光というなら、市外や海外の人が北九州市に来たときに、北九州市で暮らす人たちの生活環境にも目を向けるはず。多額の予算が必要なわけではないので、そこ

には予算を出し渋っていると。これは政策局ではないんですが、地域の負担にさせている従来の考え方の、全体の問題としてアップデートが必要であるということは意見として申し上げさせていたきたいと思います。以上です。

○委員長（村上幸一君） 意見でよろしいですか。ほかにありませんか。政策部長。

○政策部長 この計画の主体が誰なのかと。委員がおっしゃるとおり、ビジョンにも基本構想におきまして、市民が日常生活を営む上で重要なのは、尊厳を守られて安全・安心に暮らしていくことができる、暮らし続けていって幸福を感じることを掲げさせていただいております。新ビジョンは、先ほども政策課長が申しましたように、北九州市が示す町の将来像ですとか取り組むべき方向性というものを分かりやすくイメージしていただけるように、重点的に取り組む主要な政策を体系的に示しているものでございます。基本計画で、安らぐ町の実現というところで、先ほど申しました誰もが安心して暮らせる環境づくりですとか掲げさせていただいております。委員がおっしゃったように、政策の見せ方の濃淡というのはあるかもしれませんが、福祉政策は安らぐ町の実現におきまして、引き続きこの基本計画の下、先ほども申しましたが、分野別計画ですとか毎年の予算の中で具体的な施策、事業を示していきながら、先ほども言われましたごみですとか学校ですとか、そういったものも含めましてしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

○委員長（村上幸一君） ほかにありませんか。ここで副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（大久保無我君） 村上幸一委員。

○委員（村上幸一君） 私からもちょっと、すみません。新ビジョンについて質問と意見を述べさせてもらいたいと思うんですけど、まず、進捗状況の中に町のにぎわいの創出というところがあって、そこに、小倉、黒崎地区の商業地価は4年連続上昇とあるんですけど、細かいことを聞いて恐縮なんですけど、これどの辺りの地価が上がったんですかね。分かりますかね。

○副委員長（大久保無我君） 政策課長。

○政策課長 商業地価につきましては、小倉3地点は魚町二丁目と一丁目と米町一丁目の1地点ですね。黒崎につきましては、黒崎三丁目、黒崎二丁目、黒崎一丁目から各1地点ということでございます。以上でございます。

○副委員長（大久保無我君） 村上幸一委員。

○委員長（村上幸一君） 何が言いたいかというのと、細かくそこがどこなのかというのは僕も分からないんですけど、商業地というのは多分、建築基準法で言う商業地だろうと思うんですよね。そういう分け方をしていると思うんですけど、その土地が、商業に使われるための土地として上がったのかなと思っているんですよね。例えば、商業施設ができて、ホテルができて、この土地の値段が上がったんじゃないと僕は思っているんですよ。大きくは、やっぱりマンションなんですよね。マンションが土地の値段を上げているんですよ。折尾でも2倍になってい

ます。黒崎でも全て、小倉でもそうです。この間、米町の土地なんか、僕も入札で札を入れたんですけども、倍以上の値段なんですよ。何百万円で土地が売れるんですよ。マンション用、土地がそれに波及して上がっているというのが正直なところだと僕は思っているんですよ。僕も職業的にそういうところに関わっているものですから。これで、町のにぎわいの創出に商業地価が4年連続上昇したから、上がったのは事実だと思うんですけども、それは商業やイベントで上がったというよりもマンションができて上がったのが事実じゃないかと、ちょっと思うんですよ。

そうすると、町のにぎわいのところに町なか居住が広がったとか、そういったこともこの中に入れていかないといけないんじゃないのかなと私は思っています。商業だけで見ると、そうではない。だって、この4年間に今のエリアで商業施設ができたかどうかというと、申し訳ないけど、商業施設はできていないと思います。今の状況の中で商店街なんか商売するのが難しいですからね。土地の値段が上がっている理由はそれじゃないので、ここを一番に商業地価が上がったと言うんだったら、今言ったように町なか居住が増えたからと。マンション建設で土地の値段が上がったというのが僕は事実じゃないかなと思っているんで、その辺は足していかないと、構成員の皆さんが見たときにある意味勘違いすると思うんですよ。言ったように、商業地というのはあくまで、建築基準法の用語で使われたと僕は思っているんですよ。だから、その辺は足していただきたいということを要望したいと思っております。

それともう一点、議事録、鷹木委員からもさっきあったんですけども、北九州市の自治総連合会の会長さん、高宮さんの言葉ですね、本当にそのとおりだと僕は思っています、高宮さんはメイトの件、当時の建設建築委員会にも陳情を出されているんですよ。直接はこの担当ではないと思うんですけども、しっかり意見を返してあげるといことはとても大切だと思っていますし、要望なんですけど、この中で、国の予算を獲得してと。正直、土地の値段と解体費が同じぐらいというか、なかなか前に進まないというのが現実で、話がちょっとそれるんですけども、僕も住んでいた黒崎の藤田というところに商店街があって、かつてアーケードを造ることは県の補助金があったんです。だけど、商店街が老朽化して壊していきたいと言ったとき、県の補助金が当時なかったんですよ。だけど、その後、今は県にアーケードを壊すための、解体するための補助金が、アーケードを造るためじゃなくて解体するための補助金制度ができていますよ。今、国に再開発をするための、造っていくための補助金はあると思います。だけど、メイト黒崎というのは北九州市で一番最初の再開発なんですよ。僕が高校生のときにできたから、もう50年近くなるんですけども、これからはそれを、再開発をフェードアウトするための国の補助の仕組みとか、そういったものも僕はできていいんじゃないのかなと、ということがあるので、国の予算の獲得に向けてというのは、高宮さんが言われているのは多分そういう意味だろうと思うんです。ぜひ、都市戦略整備委員会のほうに申し述べていただければと思っております。以上です。

○副委員長（大久保無我君）ここで委員長と交代いたします。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（村上幸一君）政策局長。

○政策局長 いろいろありがとうございました。

まず、ビジョンの件ですけれども、確かに女性の流出は課題で、政策局としても今、御承知のとおり、WomanWill推進室で女性のリアルボイスとか聞いていますので、そういったことを伺いながら施策に反映していきますし、出生率の数字については転出入なりを把握した上で、それが結果として、こういう背景があるというのはそこで分かっていくと思うので、そこで適切に社会動態の動きとかを見れば施策に反映できるかなと思っております。

あとは、永井委員からいろいろとありましたけど、政策部長が申し上げたように、分野別計画をこちらとしても見ていって、結果的に分野別計画の達成度合いがビジョンの目指す都市像の実現につながっていきますので、そこはしっかりうちも見ていきたいと思っております。

それから、動画の件ですけれども、ここまでいろいろと御意見をいただけたと思いませんでした。ありがとうございました。まず、有効活用の分は、1,800回の再生とおっしゃられていましたが、例えば小倉駅のデジタルサイネージとか、11月に会議がありましたけど、そういった場面で使わせていただいたりとか、それなりにしかるべきところで使わせてもらっています。なので、費用対効果を踏まえてそこは活用させていただきたいですし、今、英語だけだったんですけど、今後また多言語の展開とかも多分考えられるかと思えます。

それからあと、小金丸委員から厳しい御意見をいただきましたけども、私が申すまでもないと思えますけど、実際に動画は、尺の問題があったりとかターゲットの問題があったりとか、それをどこまでどう網羅するかというのが正直難しいところだと思えます。なので、ああいう仕上がりにさせてもらっていますけども、いただいた意見をまた踏まえながらやっていきたいと思えます。

私、個人的にと言ったら変ですけど、サステナビリティで大事なものは、自分事として受け止めてもらうことだと思っています。なので、人ごとと捉えずに、先ほど、イベントでのごみの分別とか、ああいうことをきっかけにして子供たちも分かっているてもらえたらと思っていますし、必ず、人ごとではないといったことで受け止めてもらえるように頑張っていきたいと思っています。以上でございます。

○委員長（村上幸一君）ほかに質問とかなければ、よろしいですかね。

ほかになければ、以上で報告を終わります。

本日は以上で閉会します。

総務財政委員会	委員長	村上幸一	印
	副委員長	大久保無我	印